

ジュニアスポーツ指導員
専門科目カリキュラム
教育目標

SPORT

<基礎 ジュニアスポーツ指導員の役割>

1. ジュニアスポーツ指導員の役割	学習のねらい	これまでのジュニア期のスポーツに対する本会の指導者養成の経緯と今後の取り組みについて理解させる。 「ジュニア期のスポーツの考え方」の内容を踏まえ、ジュニア期のスポーツ活動が生涯を通じたスポーツへの関わり方に大きな影響を与えることを理解させ、その役割を担うジュニアスポーツ指導員の重要性について共通認識を持つ。 そしてそのために必要なジュニアスポーツ指導員に求められる能力について考える。
	講義のポイント	ジュニアスポーツ指導員の役割、必要な能力、活動の場などについて解説する。 理想とするジュニアスポーツのあり方と望ましいジュニアスポーツ指導員像について考えさせる。(意見交換)
	具体的なテキストの内容	(1) 事業の背景と理念 (2) 本事業が目指すジュニアスポーツ指導員像(役割) (3) 求められる能力 (4) 活躍の場

<基礎 ジュニア期のスポーツの考え方>

I. 基礎 1.ジュニア期のスポーツの考え方	学習のねらい	(1)今日における子どものからだところの諸問題と、その社会的背景を把握・考察し、問題解決のために、あそび・運動・スポーツが必要であることを理解させる。 (2)現代の子どものスポーツ指導の問題点を認識させ、ケガや病気及び心のダメージを起こさないような指導法についての理解を深めさせる。 (3)子どものスポーツのあり方を理解させ、ライフスタイルとあそび・運動・スポーツとの望ましい関係を認識させる。
	講義のポイント	現代社会における子どものからだところの諸問題を理解させ、子どものライフスタイルに適したあそび・運動・スポーツが必要であることを認識させる。さらに、今日の子どもの運動やスポーツの指導法に問題点があることに気づかせ、ケガや病気及び心のダメージを起こさないような指導法について解説する。
	具体的なテキストの内容	(1)今日における子どものからだところの諸問題の具体的な状況 (2)からだところの諸問題を引き起こした背景としての、子どものライフスタイルの乱れ (・あそびの衰退と消失 ・食の乱れ ・メディア漬けと睡眠の乱れ) (3)からだところの問題を改善していくための手段としての、あそび・運動・スポーツの重要性 (4)ケガや病気、心のダメージを多発させている、今日の子どもの運動やスポーツ指導の問題点 (5)子どものからだところの発達を促すあそび・運動・スポーツの指導法 (6)子どものライフスタイルに溶け込むような、あそびや運動・スポーツのあり方

<基礎 子どもの発達とコミュニケーションスキル>

子どもの発達と コミュニケーションスキル	学習のねらい	(1)一方通行の指示命令による指導は、子どもを指導者の思いどおりに操るだけで、子どものからだところの発達過程において最も重要な個性、創造性、積極性、多様性などを発揮させる機会を奪い取ってしまうことを理解させる。 (2)年齢に拘らず信頼関係を作り上げる必要条件とは、双方向のコミュニケーションであり積極的傾聴であることを理解させる。
	講義のポイント	双方向のコミュニケーションを図ることにより、個人ごとに異なる性格をしっかり理解し、それぞれの性格に見合った指導と積極的傾聴を実施すれば、信頼関係は瞬く間に育まれていくことを認識させる。 信頼関係が作り上げられた状態では、相手が聴く耳を持ち(レセプターを開き)、指導を受け入れる体制ができるため、アドバイスやリクエストにも積極的にチャレンジするようになることを認識させる。 ここでいうコミュニケーションとは、言葉だけでなく、態度で伝えるもの、態度から洞察できるものを含めた全身全霊でのコミュニケーションであることを認識させる。 実際に双方向のコミュニケーションのロールプレイを体験してもらう。
	具体的なテキストの内容	・個人差の容認(誰にでも長所と短所があることを認める) ・対象者の目線に立つ(一緒に楽しむ) ・「コミュニケーションの3V」の法則 ・積極的傾聴(質問、聴く、ペースング、承認、深める、まとめる、沈黙など) ・観察、洞察 ・アドバイス ・リクエスト

<乳幼児期 動きの発達とスキルの獲得（基本的動作の習得）>

II. 乳幼児期 1.動きの発達とスキルの獲得 （基本的動作の習得）	学習のねらい	(1)発達全体の中での、乳幼児期の動作発達の意義を理解させる。 (2)生涯における動作発達の中での、乳幼児期の特徴を理解させる。 (3)乳幼児期における基本的動作の質的な変容、及び量的な獲得について理解させる。
	講義のポイント	発達全体の中での乳幼児期の特性と、乳幼児期における動作発達の意義と特徴を理解させ、基本的動作の質的な変容と量的な獲得について解説する。
	具体的なテキストの内容	(1)身体運動の側面、認知的な側面、情緒・社会性の側面と乳幼児期の相互補完性 (2)乳幼児期における初歩的な動作の出現とその発達 (3)乳幼児期における基本的動作の質的な変容 (4)乳幼児期における基本的動作の量的な獲得

<運動あそび・ゲームの実際>

乳幼児期 1. 運動あそび・ゲームの実際	学習のねらい	(1)ごっこあそびからゲーム、スポーツへの発展のプロセスを捉えるとともに、多様な動きとそれらの動きを組み合わせた運動方法を理解させる。 (2)運動あそびやゲームについて、それらの具体的なねらいや内容、実施方法について理解させる。
	講義のポイント	ごっこあそびからゲーム、スポーツへの発展のプロセス、偏りのない動き、近年習得できていない動きや低下している体力要素を養うことの重要性を理解させるとともに、多様な動きを経験させる方法について強調して解説する。
	具体的なテキストの内容	(1)あそびや運動(ごっこあそび、ゲーム、運動あそび、スポーツ)の種類とそれらの発展のプロセス (2)幼少年期に必要とされる動きと、それらの動きを用いた運動の仕方 ・偏りのない動きの重要性 ・近年、習得できていない動きや低下している体力要素向上の必要性 (3)運動あそびやゲームの実際 ・具体的な指導法とそれらの運動で育つもの、留意事項、バリエーション ・あそびや運動に取り組みやすい環境づくりの方法と安全に関するルール

<児童前期 動きの発達とスキルの獲得（動作の習熟）>

III. 児童前期 1.動きの発達とスキルの獲得 （動作の習熟）	学習のねらい	(1)発達全体の中での、児童前期の動作発達の意義を理解させる。 (2)生涯における動作発達の中での、児童前期の特徴を理解させる。 (3)児童前期における基本的動作と運動組合せの質的な変容、及び量的な獲得について理解させる。
	講義のポイント	発達全体の中での児童前期の特性と、児童前期における動作発達の意義と特徴を理解させ、基本的動作と運動組合せの質的な変容と量的な獲得について解説する。
	具体的なテキストの内容	(1)児童前期における基本的動作の習得の重要性 (2)児童前期における運動組合せの出現とその発達過程 (3)児童前期における基本的動作、及び運動組合せの質的な変容過程 (4)児童前期における基本的動作、及び運動組合せの量的な獲得のプロセス

<運動あそび・ゲームの実際>

児童前期 1. 運動あそび・ゲームの実際	学習のねらい	(1)運動あそびやゲーム、スポーツの中で展開される多様な動きと、それらの動きを組み合わせた身のこなしの習得と運動方法を理解させる。 (2)運動あそびやゲーム、スポーツについて、それらの具体的なねらいや内容、実施方法について理解させる。
	講義のポイント	運動あそびやゲーム、スポーツの特徴、幼児期から10歳ぐらいまでに平衡性、敏捷性、巧緻性などの調整力獲得の適時性があることの重要性を理解させるとともに、多様な動きを経験させる方法と近年、獲得できていない動きや低下している体力の要素について、強調して解説していく。
	具体的なテキストの内容	(1)運動あそびやゲーム、スポーツの種類とそれらの特性 (2)児童前期に必要とされる動きと、それらの動きを用いた運動の仕方 ・調整力向上の必要性 ・偏りのない動きや、近年、習得できていない動きの獲得の重要性 (3)運動あそびやゲーム、スポーツの実際 ・具体的な運動指導法とそれらの運動やスポーツで育つもの、留意事項、バリエーション ・運動あそびやスポーツに取り組みやすい環境づくりの方法 ・安全に関するルールと対応

<児童後期 動きの発達とスキルの獲得>

児童後期 1. スポーツスキルの発達	学習のねらい	スポーツスキルの基礎となる基本的な運動動作の概念と個々の概念との関係、ならびにその関係から生まれる多様な動作を理解するとともに、複合的な動作の洗練の可能性を探り、スポーツスキルの獲得に間接的あるいは直接的に結びつく指導方法の体系化を構築しようと試みる
	講義のポイント	(1) 運動動作の概念…動作(単関節運動と複関節運動)、動作パターン、フォームとパフォーマンス、基本的運動動作の概念を理解する (2) 基本的な運動動作…蹴る、投げる、打つ、捕る、滑る、叩く、走る、跳ぶ、泳ぐ、巻く、漕ぐ、たたきつける、引いて押すなどの発達とそのスキルの獲得方法を学ぶ
	具体的なテキストの内容	(1) スポーツスキルに関する3次元的な動きの把握 身体動作をとともうあそびや運動を構成する手足の操作性 (2) 基本的なスポーツスキルの3次元的な動きの把握とその発達 ア. 蹴る イ. 投げる、打つ、捕る ウ. 滑る エ. 叩く オ. 走る、跳ぶ、 カ. 泳ぐ、巻く、漕ぐ、 キ. たたきつける、引いて押す

<青年前期 動きの発達とスキルの獲得>

青年前期 1. スポーツスキルの発達	学習のねらい	スポーツの動きを構成する基本的なスキルの概念や複合的な動作組み合わせを理解するとともに、スポーツスキルの獲得に結びつく指導方法の体系化の構築を試みる。
	講義のポイント	(1) 基本的な運動組合せ…走って跳ぶ、走って打つ、跳んで叩く、跳んで捕る、捕って投げるなど複合的な運動動作の発達とそのスキルの獲得方法を学ぶ。 (2) スポーツ種目特有のスキル…サッカー、野球、スキー、テニス、陸上競技、水泳、柔道、ダンスなどに代表されるスポーツスキルの発達の特異性とそのスキルの獲得方法を学ぶ。

<コーディネーション能力を高める運動>

1. コーディネーション能力を高める運動	学習のねらい	(1) コーディネーション能力を高める運動を行うことが、スポーツ種目別の専門的な動作を習得するために必要であることを理解させる。 (1) 筋と神経の協調性を高めることが、幅広いスポーツ活動に対応できることの重要性を理解させる。 (2) 乳幼児期から青年前期にわたる、それぞれの発達段階に応じた、コーディネーション能力を高める運動の必要性を学ばせる。
	講義のポイント	(1) コーディネーション能力を高める運動が、乳幼児期から青年前期において、重要であることを認識する。 (2) コーディネーション能力を高める運動の構造を理解する。 7つのコーディネーション(定位能力、変換能力、識別能力、反応能力、連結能力、リズム能力、バランス能力)能力の意味を知り、対象に応じたプログラム作成を試みる。
	具体的なテキストの内容	(1) コーディネーション能力を高める運動とは ア. コーディネーション能力の内容 イ. コーディネーション能力を高める運動の種類 ウ. コーディネーション能力を高める運動の原理・原則 エ. コーディネーション能力を高める運動の実践例 (2) コーディネーション能力を高めるための基本的な運動プログラムの作成 ア. 発達段階に応じた一般的なコーディネーションを高める運動プログラム イ. 7つのコーディネーション能力とスポーツ種目の特性を複合させた専門的なコーディネーション能力を高める運動プログラム